

2020年度の業績ハイライト（作成日：2021年2月26日）

氏名／所属：伊藤 勝久（神奈川工科大学）

今年度の業績を端的に表現すると...

リハビリしつつ新常態を探った足跡

学内の教育開発関係活動	ミクロレベル	<ul style="list-style-type: none"> ①オンライン研修会（新採用教員研修会全6回・FDシンポジウム）の企画・運営 ②オンラインワークショップ（全6回）の開催（このうち4回でファシリテーター担当） ③オンライン公開授業（オンデマンド方式）の開催 ④情意領域に係るDP実質化に向けた有志による研究会の運営・報告（学内競争的資金を利用）
	ミドルレベル	<ul style="list-style-type: none"> ①看護学科における初年次教育の更なる改善（初年次担当者と連携し内容・評価の連続化） ②学科3ポリシーの運用支援（シラバス・カリキュラムマップを用いたチェックリストの運用と学科FDの開催＝形骸化？） ③シラバス記述のチェックと管理の実現（大学・学科に責任を持たせ、カリキュラムマネジメントのためのチャンネルとして稼働＝形骸化？） ④カリキュラム・マネジメントに関わるワークショップの開催（上述②のうちの1回）
	マクロレベル	<ul style="list-style-type: none"> ①学長と連携し全学オンライン授業研究会の発足・開催（全5回開催：有効ツールの使用方法、実施授業例の報告、学生・教員アンケートの定性分析調査報告、授業・カリ設計に向けた提言と展望。このうち3回で発表報告） ②授業アンケート実施方法の刷新（非常時対応・新常態を探るため新教務システムとの連動を試行） ③教育評価導入のための観点構築（授業アンケート結果・FD活動・重要答申理解）と教材開発（グラウンドデザイン答申理解のためのe-learning教材の開発）・実施・集計報告 ④「動機づけ教育」について学長に提言（本学での内発的動機づけと外発的動機づけの今後のあり方について） ⑤KAITオンライン授業スタンダードの作成・ガイドラインの執筆（進行中）
高等教育開発者の活動としての特記事項		<p><学外の教育開発関係活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ①本学ワークショップの学外公開（協定校および関係機関対象） ②2大学において「オンライン授業の設計」関連FD講演会で講師担当

2021年度の活動目標（作成日：2021年2月26日）

氏名／所属：伊藤 勝久（神奈川工科大学）

来年度の目標を端的に表現すると...

周囲を潰さず自分も潰れぬ、形が残る教育改革支援の実践

学内の教育開発関係活動	ミクロレベル	<ul style="list-style-type: none"> ①教育力向上支援のためのワークショップの更なる開発・改善（全8回を予定） ②教育改善のための学生ネットワークの構築と運用 ③授業カウンセリングの普及 ④若手（だと思っている）教員によるインフォーマルな授業・教育改善意見交換会の充実（裾野を広げる仕掛けと仲間づくり）
	ミドルレベル	<ul style="list-style-type: none"> ①刷新されてしまう看護学科における初年次教育の改善（初年次担当者と連携し内容・評価の連続化）の持続可能性の追求 ②マネジメント可で改善可能なカリキュラム改革実現に向けた、間接的・継続的な働きかけ
	マクロレベル	<ul style="list-style-type: none"> ①新常態における授業アンケートの方法と振り返り（各教員による学生への声）について提案・開発・実施 ②SCOT活動の定着と拡充 ③カリキュラム・マネジメントについて現状（先述した実績の②③）の方法の見直しについて具体的に提案 ④教育評価の参考資料としてTP（TPC）が活用できるよう提言 ⑤全学オンライン授業研究会の持続的開催（新常態で機能し、具体的に「役に立つ」ことを目指して）
高等教育開発者の活動としての特記事項		<p><教育開発に関わる研究活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ①初年次教育について自己の担当コースでのSoTLの結果を報告 ②米国ペンシルベニア州西部におけるIB・APの実態と課題（現地調査を実施） <p><JAEDに関わる活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ①何らかの形で貢献できることをする

2020年度の業績ハイライト（作成日：2021年3月3日）

氏名／所属：沖 裕貴（立命館大学）

今年度の業績を端的に表現すると...

Web授業への対応支援

学 内 の 教 育 開 発 関 係 活 動	ミクロレベル	新任教員研修（Web開催）、学部・研究科へのWeb授業支援、非常勤講師・授業講師へのWeb授業支援、Web授業のマニュアル・FAQ作成、サポートデスクの運営、各種講演会・オンラインサロン・教学実践フォーラムの開催等々
	ミドルレベル	人間科学研究科の3ポリシー整備支援、教育・学修支援センターの運営（執行部）、学内のWeb対応に関わる各種委員会への出席とアドバイス、初年次教育用立命館学教材「未来を拓く」の改訂と執筆
	マクロレベル	Web授業に関する学生、教員向けのアンケートの開発と実施、分析と報告（レポート、オンライン報告会、教学委員会）、教学部としてのWeb対応への協働・知見の提供
高等教育開発者の活動としての特記事項		<p><学外>名城大学、創価大学の外部評価委員、日本学術振興会「知識集約社会を支える人材育成事業」の審査委員、「教学マネジメントの確立に資する事例の把握等に関する調査研究」の委員、私大連教育研究委員会委員、私大連FD推進ワークショップ運営委員長、中部大学・広島国際大学客員教授として学内のFDプログラムの開発、実施支援、山形県立保健衛生大学大学院博士課程における「大学教育方法論」の授業実施（非常勤講師）、行政管理学会中四国支部、関西FDの基調講演をはじめ、18件の外部機関における講演、研修の実施（すべてWeb開催）</p> <p><研究活動>加藤会員とともに科研の一環として「Teaching for Quality Learning at University」の翻訳（継続中）、中部大学教育研究No.20に高比良らと共著で「FD研修としての「授業サロン」の短期的・長期的な受講効果—授業の評価視点からの質的分析—」の投稿・採録、大学教育学会2020年度課題研究集会「課題研究シンポジウムⅣ（アクティブ・ラーニングを支援する学生アドバイザーの制度・研修・効果に関する実証的研究）」における指定討論ならびに前年度課題研究の指定討論をまとめた論考の執筆（大学教育学会第42巻第1号）</p> <p><JAED関連>愛媛・香川・高知・徳島大学のSPOD新任教員研修のプログラム認証のための活動</p>

2021年度の活動目標（作成日：2021年3月3日）

氏名／所属：沖 裕貴（立命館 大学）

来年度の目標を端的に表現すると...

引き続き、Web授業への対策支援に明け暮れる；；

学内の教育開発関係活動	ミクロレベル	新任教員研修（Web開催）、学部・研究科へのWeb授業支援、非常勤講師・授業講師へのWeb授業支援、Web授業のマニュアル・FAQ作成、サポートデスクの運営、各種講演会・オンラインサロン・教学実践フォーラムの開催等々を継続。特に今年度はBlendedをはじめ、より効果の高いWeb授業の開発を支援。
	ミドルレベル	学部・研究科の3ポリシー整備支援、教育・学修支援センターの運営（執行部）、学内のWeb対応に関わる各種委員会への出席とアドバイス等
	マクロレベル	Web授業に関する学生、教員向けのアンケートの開発と実施、分析と報告（レポート、オンライン報告会、教学委員会）、教学部としてのWeb対応への協働・知見の提供等（継続）
高等教育開発者の活動としての特記事項		<p>＜学外＞名城大学、創価大学の外部評価委員、日本学術振興会「知識集約社会を支える人材育成事業」の審査委員、「教学マネジメントの確立に資する事例の把握等に関する調査研究」の委員、私大連教育研究委員会委員、私大連FD推進ワークショップ運営委員長、中部大学・広島国際大学客員教授として学内のFDプログラムの開発、実施支援、山形県立保健衛生大学大学院博士課程における「大学教育方法論」の授業実施（非常勤講師）、他大学における講演、研修の実施等。</p> <p>＜研究活動＞加藤会員とともに科研の一環として「Teaching for Quality Learning at University」の翻訳の発刊と大学教育学会第43回大会での発表（共著）、2020年度課題研究集会「課題研究シンポジウムⅣ（アクティブ・ラーニングを支援する学生アドバイザーの制度・研修・効果に関する実証的研究）」における指定討論をまとめた論考の発表。</p> <p>＜JAED関連＞愛媛・香川・高知・徳島大学のSPOD新任教員研修のプログラム認証のための活動の継続。</p>

2020年度の業績ハイライト（作成日：2021年2月28日）

氏名／所属：関沢 和泉（東日本国際大学）

今年度の業績を端的に表現すると

新型コロナウイルス感染拡大状況への対応のなかで

※ 小規模大学のため、ミドルとマクロのレベルの区分はやや曖昧

学内の教育開発関係活動	ミクロレベル	2020年度前期は勤務校でもオンライン授業となった。全学で実施のための基盤整備（Moodleに原則集約とし、LMSを使い慣れない教員も多かったことからひな型も作成）と利用のための動画作成＋研修（対面＋オンライン）、オンライン上でのAL実施のためのツール紹介を実施（LMSを利用したループリック評価もひな型に組み込んでいたが、普及率には課題あり）。運営についてのサポートも行う。
	ミドルレベル	①各学部において、授業に組み込んだICEループリックが示すDPの分散実装現況に基づいたカリキュラムの微調整。 ②健康福祉学部（社会福祉士等養成課程）において、学生たちが資格取得に必要な実習を行ったが、受け入れ実習先を招待しての実習報告会を、オンラインで接続して実施するための整備。 ③海外短期語学プログラムの、オンラインへの移行補助。
	マクロレベル	①オンライン授業・ハイブリッド授業対応のための機材・教室（収録室、配信可能教室）整備。 ②オンライン授業・ハイブリッド授業への学生の準備状況（春）の調査、満足度とその要因の調査（夏、年度末）、フィードバックによるオンライン授業・ハイブリッド授業の改善。 ③学習履歴データ分析の活用に向けた試行（匿名化し、複数名で分析）。 ④年度整備した学部横断の副専攻プログラムについて実働スタッフとして授業担当＋マネジメント。 ⑤推進・運営を担っていた大学教育再生加速プログラムテーマVが事後評価Aを受ける。
高等教育開発者の活動としての特記事項		<p>＜学外の教育開発関係活動＞</p> <p>①内部質保証体制確立に向けた講師 外部1大学において、内部質保証体制確立に向けた全学的、執行部向け研修を担当（2回）。</p> <p>＜教育開発に関わる研究活動＞</p> <p>①イタリアの高等教育改革 日本に類似した困難に直面しているイタリアの高等教育改革についての基礎的な研究を進めた。</p> <p>②準正課・正課外活動の教学マネジメントへの取り組み 準正課や正課外活動を教学マネジメントに取り込むにはどのようにしたらよいか。一方には正課化とでもいうべきアプローチがあるが、本年度は主にアメリカの状況と日本の状況へのアンケート調査の分析を行い、MJIRで発表した。</p>

2021年度の活動目標（作成日：2021年2月28日）

氏名／所属：関沢 和泉（東日本国際大学）

来年度の目標を端的に表現すると...

高等教育研究開発センターの組織としての活動の向上

学内の教育開発関係活動	ミクロレベル	①学生の活動が学習ポートフォリオ→ディプロマサブリメントと流れる体制を確立する。 ②学内ティーチングステートメント（ポートフォリオ）の作成率を30%にする。
	ミドルレベル	①健康福祉学部における4年間を通した「アカデミックライティング」の課程の設計を完成させる。 ②評価とは何かについて、学内（各学部）の合意形成をはかる。
	マクロレベル	①学修履歴データ活用についての規程等整備＋実際の学内活用の促進（③とも関連）。 ②データサイエンスプログラムについて副専攻として整理する？ ③設置を主導した高等教育研究開発センターについて、属人的ではなく機能するように（努力）する。 ④数年後の認証評価受審に向けたSD。
高等教育開発者の活動としての特記事項		<p><学外の教育開発関係活動> 引き続きAPの成果を学外発信する。</p> <p><教育開発に関わる研究活動> ①イタリアの高等教育改革 日本の将来への示唆となるようなかたちで結論をまとめる。 ②準正課・正課外活動の教学マネジメントへの取り込み モデルとなる方法を何パターンかで示す。</p>

2020年度の業績ハイライト（作成日：2021年 2月 13日）

氏名／所属： 関田 一彦（創価大学）

今年度の業績を端的に表現すると...

世代交代の必要性を強く意識しつつ、現状把握に努め、次年度への足場固めを試みた

学内の教育開発関係活動	ミクロレベル	同僚会議のコーチ役として、オンラインセッションを担当した。 Zoomを使ったオンライン授業に関するセミナーに複数参加し、同僚への情報共有にも努めた。
	ミドルレベル	4月から教育学部に移籍し、学部長になったことで学部FDの実態が判明した。 具体的には、学部FD委員会がAP事業だけに活動を限定されていた。教員向けの授業改善セミナーなどは別委員会が企画運営しており、大学全体のFDと歩調を合わせた取り組みに至っていなかった。そこで、FD委員には改めて学部FD委員会の役割を説明し、次年度に委員会の統合・改編を行うことにした。前期には、学科主任に指示して、非常勤講師も含めたZoomによるオンライン授業に対応するためのオンライン授業懇談会を定例開催させた。
	マクロレベル	学長ビジョン（短期教育改善計画）の一つに挙げられたティーチングポートフォリオの導入促進を図るためにWGを組織し、年度末には各学部サンプルTPの作成を行った。オンライン授業に関する教員、学生双方の適応状態を把握するためのアンケート調査を実施し、状況のモニタリングに努めた。 初年次教育推進室長として、新入生の大学適応支援体制整備を進めた。
高等教育開発者の活動としての特記事項		（学外の教育開発関係活動、教育開発に関わる研究活動等） ・教育学術新聞にコラムを寄稿した。 ・初年次教育学会誌に、本学の初年次ライティングプログラムについて取り組み報告を寄稿した。

2020年度の活動目標（作成日：2021年 2月 13日）

氏名／所属： 関田 一彦（創価大学）

来年度の目標を端的に表現すると...

学部長として若手教員のFD活動を支援しつつ、全学のAP事業継承を促進

学内の教育開発関係活動	ミクロレベル	同僚会議のコーチ役として複数学部のFDを支援する。 TPのメンターとして同僚のTP作成を支援する。
	ミドルレベル	4月から学部委員会の改編を行い、学部FDと全学FDの連携強化を支援し、学部FDerの養成を進める。 AP事業継承のモニタリングを進め、学部DP達成のアセスメント科目の整備・拡充を進める。 教職課程改革を進め、教員のICT活用能力向上を図る。
	マクロレベル	4月からFDセンター（CETL）長に復帰する。2022年度に実施予定のカリキュラム改訂に向け、各学部のカリキュラムコーディネーター育成を進める。前任のCETLセンター長の計画を受け、新たな新任教員研修プログラムなど、階層別FDを本格稼働させる。Turnitinを使った剽窃チェックを組み込んだレポート評価の支援体制を整備し、それに伴う研修を企画実施する。
高等教育開発者の活動としての特記事項		（学外の教育開発関係活動、教育開発に関わる研究活動等） 前年度に続き、科研プロジェクトとして、教員の授業観変容を促す研修デザインの研究を進める。 関西国際大の藤木さんと山口大の林さんが中心になって申請している大学教育学会課題研究に採択された場合、正課外学習支援の成果アセスメントについてお手伝いする。

2020年度の業績ハイライト（作成日：2021年2月12日）

氏名／所属： 吉田 博（徳島大学）

今年度の業績を端的に表現すると...

オンラインを活用した新しいFDの在り方を試行した1年

学内の教育開発関係活動	ミクロレベル	<ul style="list-style-type: none"> ◆ <u>オンライン・書面による「教育力開発コース」</u>（新規採用教員のFD）の運営を行う。集合研修「授業設計ワークショップ」は同期型オンライン研修としてほぼ対面と同様のプログラムで実施し、「授業参観・授業研究会」は、対象教員が「授業実践振り返りシート」を用いて、自分で実践を振り返り、書面上で他者（FD委員）の評価を受ける取組を代替として実施した。 ◆ 教職員が業務の中で実践することができる情報を提供する「<u>すぐ使える90分セミナー（10回シリーズ）</u>」をオンラインでSPODに開放して実施した。
	ミドルレベル	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 各学部の教育プログラム評価委員会における、<u>プログラムの評価・改善に関する実態を把握するための調査を実施</u>し、結果を大学教育委員会等で報告する。この結果をもとに「<u>教育の質保証FD</u>」を計画し、実施を希望する学部から取り組みを開始する。本年度内に薬学部で始動する。
	マクロレベル	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 教育担当理事との意見交換を定期的実施（毎月1回）し、「<u>教学アンケート実施体制の改訂</u>」、「<u>ポストコロナにおける徳島大学の教育改革</u>」について検討した。教学アンケートについては、2021年度からの実施体制づくりの基礎を決定することができた。
高等教育開発者の活動としての特記事項		<p>＜学内における活動＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 学生の学習を促進する授業ティップスを収集するための学内の事例調査、事例カードの作成 <u>オンライン授業における取り組み</u>を中心に調査、作成 ② 全学FD推進プログラムのオンライン化 ③ 大学教育研究ジャーナル編集委員会における論文の査読 <p>＜学外における活動＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ① SPOD業務；新任教員研修のJAED認証に関わる業務（進行中） <p>＜JAEDに関わる活動＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ① CTLA研究のメンバーとしての活動 <p>＜研究活動＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 徳島大学における「授業設計ワークショップ」の効果検証；大学教育学会にて発表、大学教育研究フォーラムにて発表予定 ② ラーニングポートフォリオに関する効果検証；初年次教育学会にて発表

2021年度の活動目標（作成日：2021年2月12日）

氏名／所属： 吉田 博（徳島大学）

来年度の目標を端的に表現すると...

オンラインを効果的に活用し新しいFDを開発していく1年

学内の教育開発関係活動	ミクロレベル	<ul style="list-style-type: none"> ◆ オンラインを効果的に活用したFDプログラムの充実させる ◆ 新任教員を対象とした教育力開発コースでは、対象者の参加状況、修了状況を学内で積極的に共有し、参加を促すための取組を行う。 ◆ 2020年度より取組みを開始した「大学院生のためのワークショップ」を充実させる。
	ミドルレベル	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 2020年度より（薬学部で）取組みを開始した「教育の質保証FD」を、学内に拡大していく。
	マクロレベル	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 新教育担当理事との関係を作り、理事及び役員等の部門業務、FD業務に対する理解を促進する。
高等教育開発者の活動としての特記事項		<p>＜学内における活動＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 2020年度に引き続き、全学FD委員会を活性化させ、学部のFD担当者、教務委員、プログラム評価委員との連携を強化し、協力体制を強固にする。 ② 2020年度に引き続き、大学教育カンファレンスin徳島、大学教育研究ジャーナルに関する広報を積極的に行い、学内における教育実践研究の文化を定着させる活動を続ける。 ③ ホームページを効果的に活用し、部門の活動、FD活動の広報を積極的、戦略的に行い、学内における部門の知名度を向上させる。 <p>＜学外における活動＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 2020年度に引き続きSPODにおける新任教員研修のJAED認証を主担当として推進する。 <p>＜JAEDに関わる活動＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ① CTLA研究のメンバーとしての活動 ② ジャーナル編集に携わる ③ 準会員を利用したJAEDへの勧誘活動 <p>＜研究活動＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 2019年度より進めている「授業設計ワークショップの効果検証」、「ラーニングポートフォリオに関する効果検証」をさらに進め、学会発表を行い、論文化を目指す。

2020年度の業績ハイライト（作成日：2021年2月25日）

今年度の業績を端的に表現すると...

氏名／所属： 栗田佳代子 （ 東京 大学）

コロナ禍へ機動的に対応し、東大の教育転換に大きく貢献したことによる
大学総合教育研究センターのプレゼンス向上

学内の教育開発関係活動	ミクロレベル	プレFD（東大FFP）および学振特別研究員申請書作成書WSその他の安定的実施に加え、新任教職員研修オンデマンド化と教材作成、オンライン授業情報交換会（年30回）の創設と実施、オンライン授業のため全学向け各種講座実施（10回）、FD人材育成プログラム試行を開始した。
	ミドルレベル	医学部、経済学部、工学部、心理相談室、キャリア相談室のオンライン化対応のためのFD研修を担当した他、教育学部のグループワーク研修担当、学部生必修のインクルーシブ教育オンラインプログラムのデザイン、教員向けインクルーシブ教育FDプログラムのコンサルテーション、初年次ゼミナール担当教員・TA研修のデザインと実施、大学総合教育研究センター副センター長として新体制構築を行った。
	マクロレベル	オンライン授業・会議情報のためのウェブサイトuteleconを立ち上げて運営し、4月からの学事暦変更なしの全面オンライン化に大きく貢献。全学のオンライン授業検討WGメンバーとして、2020年度の対応に加え、2022年度の教育方針策定にかかわる。職員の業務デジタル化推進WGメンバー。クラスサポーター、コモンサポーター制度を創設し授業支援と学生のオンキャンパスジョブ支援。
高等教育開発者の活動としての特記事項		<p><学外向けの活動></p> <ul style="list-style-type: none"> • Utelecon：学外にも公開しオンライン授業リソースとして貢献(学内外併せて累計33.8万ビュー)。 • 東大FFPをOCW化して公開。「インタラクティブ・ティーチング」をcourseraにて3月に公開予定。 • ティーチング・ポートフォリオ関係の研修をトルコ含め10件 • 一般のオンライン授業のための研修を6件、うち5月のZoom講座は参加総数1700名 • JAXAの教育アドバイザー（JAXAの実施する研修への改善支援） <p><研究活動></p> <ul style="list-style-type: none"> • プレFDに関するレビュー論文1件他、4本 • アントレプレナーシップ教育について共著1本 • 書籍分担執筆3編、編者3編（いずれも3月出版予定：TP。授業改善、授業設計） • ティーチング・ステートメントに関する研究（基盤B）

2021年度の活動目標（作成日：2021年2月25日）

氏名／所属： 栗田佳代子（東京大学）

来年度の目標を端的に表現すると...

コロナ後の大学教育を牽引する大学へ

学内の教育開発関係活動	ミクロレベル	<ul style="list-style-type: none"> 東大FFPの機能強化（発展プログラムの充実、グローバル対応、courseraの始動） FD人材育成プログラムの本格始動
	ミドルレベル	<ul style="list-style-type: none"> 大学総合教育研究センターおよび東大FDサイト、uteleconサイトの充実 インクルーシブ教育、インクルーシブ教育FDの稼働 オンライン授業支援の定常化
	マクロレベル	<ul style="list-style-type: none"> 東大の2022年度教育運営方針の策定（本部WG） 2020年度の教育に関する緊急的措置の恒常化 大学総合教育研究センターの機能拡大への体制対応 全学の高度デジタル化の推進
高等教育開発者の活動としての特記事項		<p><学外への活動></p> <ul style="list-style-type: none"> 東大の教育リソースの公開促進（utelecon, 他のプラットフォーム） TP研究会におけるTP普及促進活動 TP普及に関連する学外大学の導入支援 ブレFDに関連する学外大学の導入支援 <p><研究活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ティーチング・ステートメントの効果測定・研修開発（科研基盤B） センシング技術を用いたメンター研修開発 ブレFDプログラムに関する効果特定研究 インタラクティブ・ティーチングに関連する書籍出版（2冊）

2020年度の業績ハイライト（作成日：2021年2月26日）

氏名／所属：桑木 康宏（学びと成長しくみデザイン研究所）

今年度の業績を端的に表現すると...

カリキュラムの設計・実行・評価・改善の取り組みを愚直に続ける中で、
改善事例が少しずつ増えてきた。

学内の教育開発関係活動	ミクロレベル	①遠隔授業のノウハウ共有FDを11学科、延べ16回開催。内2学科は、独自FDの企画に発展。
	ミドルレベル	<p>②12学科でカリキュラムアセスメントワークショップを同一パターンで実施し、いずれの学科でも効果を認めていただけるスタイル（授業分析＋カリキュラム分析＋コミュニケーション）を確立。</p> <p>③学修計画と振り返りの設問設計と、学生の回答想定に応じた面談シナリオを学部長・学科長に整理していただき、学科会議で先生方にご協力いただくという進め方をスタート。（3学科）</p> <p>④学部長・学科長との面談を約3年間継続してきたことを通じて、学部長・学科長がファシリテーターを務めるワークショップを3学科で実施してもらえるようになった。</p> <p>⑤基盤教育改革の議論が、2大学でスタート。</p> <p>⑥人材育成構想の整理を3学科で新規作成支援。アセスメント結果に基づく人材育成構想の更新1学科。</p>
	マクロレベル	<p>⑦新たに、学生の自己評価に基づくカリキュラムアセスメントの枠組みを8大学で採用いただいた。</p> <p>⑧認証評価に向けた準備支援2大学。 ⑨執行部向け、教学マネジメント研修会3大学。</p>
高等教育開発者の活動としての特記事項		<p>⑩次のa～dに関する動画、計15本4時間22分を公開。12大学で学内研修会に採用。延べ2,581回再生。また別途、学生数約1.2万人の大学に公式FDコンテンツとして、下記a,c,dを採用いただいた。</p> <p>a. グランドデザイン答申及び、教学マネジメント指針の解説 b. 近年の高等教育政策の流れを一つの文脈でとらえ直すための解説 c. カリキュラムマネジメント_設計編 d. カリキュラムマネジメント_アセスメント編</p> <p>⑪次の流れのSD研修会のスタイルを確立。</p> <p>PDFファイルに動画や資料のリンクを記載したものを元に事前学習→Webアンケート→研修会当日</p> <p>⑫カリキュラムコーディネーター養成講座講師。I大学の組織風土としくみ研究会の立ち上げ。</p> <p>⑬瀬戸内グローバルアカデミーにて、アメリカのアトランティック大学と連携した高等教育プログラムを日本で開講する仕組みをスタート。また、海外学生に協力してもらい、日本人学生の言語概念化能力強化プログラムをテスト開講。</p> <p>⑭教育学術新聞に「カリキュラムマネジメントのために必要な”しくみ”づくり」寄稿。</p>

2021年度の活動目標（作成日：2021年2月25日）

氏名／所属：桑木 康宏（学びと成長しくみデザイン研究所）

来年度の目標を端的に表現すると...

AIの活用による個別最適化FDの実現に向けた取り組みをスタート。

学内の教育開発関係活動	ミクロレベル	①次の3つの情報から、先生方にお薦めのFDコンテンツが推奨される仕組みの実証をスタートする。 ・受講生の到達目標自己評価/担当教員の成績評価/受講生のGPA
	ミドルレベル	②年間2～4回のワークショップ＋学科運営会議＋学科会議をベースに、年間のアセスメント活動を回せる大学を増やす。
	マクロレベル	③”②”を学部長、学科長が学科内で定着させるための後方支援として、アセスメント学科会議の開催とその議事録を、認証評価室系の部署に提出することをルール化することを想定。 ④学部長学科長のアセスメント活動に対するモチベーションを高める（アセスメント活動を頑張っても、学部長や学科長の頑張りが見えず、評価されることが少ない問題を解決する）ため、各学科ごと年間の活動目標を立て、成果指標を設定し、その結果がどうなったかを共有し合う行事を設定できる大学を増やす。
高等教育開発者の活動としての特記事項		⑤FDコンテンツが充実してくると、今度は、どのような順番に何を学ぶと良いかが分かりにくくなると予想している。これに対処するため、各大学のFD担当者のサポートをし、その大学の実態に合ったFD研修プログラムの検討を支援する活動をスタートする。 ⑥FDを通じた目標の一つとして組織開発を意識してもらえるようになるよう、大学の組織風土としくみ研究会から情報発信を行う。 ⑦カリキュラムコーディネーター養成講座評価編に向けて、より多くの大学でアレンジして取り組みやすいアセスメント活動の概念化に取り組む。 ⑧地方小規模私立大学の教養教育改革を支援するための準備として、AI時代に合わせた語学教育プログラムのテストケースを増やす。（共同作業プログラム/言語概念化能力強化プログラムを想定）

2020年度の業績ハイライト（作成日：2021年2月26日）

氏名／所属：佐藤浩章（大阪大学）

コロナ対応とレバレッジ活動：コロナによる史上最大規模のFD展開

学内教育開発関係活動	ミクロレベル	①教員向け研修（全学：オンライン授業、研究室教育、学部：薬学部）ならびにオンライン教材作成（オンラインの授業設計、オンライン授業の評価、15のシナリオ）、②学部生向け授業（未来創造のためのイノベーターズゼミ、未来の教育イノベーターズスクール）、③大学院生向けブレFDプログラム（FFP I・II・III）ならびにTeaching Fellow 向研修会（年3回）、④高校教員向け探究学習指導セミナー（12月）
	ミドルレベル	①高等教育・入試研究開発センターとの連携によるカリキュラム評価支援
	マクロレベル	①全学的コロナ対応支援（全学方針立案支援、阪大ウェルカムチャンネル、学部生向けブレンデッド教育受講の手引き）、②全学教学マネジメント体制と機能への提言（組織改革に向けた提言）、③30時間新任教員FDの運営、④全学FDフォーラムの企画・運営（オンライン事例紹介と効果検証）
高等教育開発者の活動としての特記事項		<p>＜学外の教育開発活動＞政策立案への関与&教育イノベーション事例の創出</p> <p>①本気の大学支援事業（大正大学、京都先端科学大学、追手門学院大学、近畿大学、開志専門職大学）、③学会における専門分野別FDの推進（日本看護学教育学会・国立高専機構との連携）、④FD担当者支援（オンラインフリー教材開発「学習評価」by関西地区FD連絡協議会）、⑤政府関連業務（大学設置審議会、経産省未来の教室事業アドバイザー、厚生労働省委託研究看護学校協議会）、⑥高校探究学習＋キャリア教育教材開発（マイナビと連携）、⑦外部評価委員・運営委員（SPOD、理工学教育共同利用拠点）、⑧メディア発信（読売新聞3回、NHKニュースシブ5時、大阪大学NEWSLETTER）、⑨東京大学教育学研究科総合教育科学専攻大学経営・政策コース非常勤講師（大学経営政策特殊研究2020秋冬）</p> <p>＜教育開発に関わる研究活動＞カリキュラムマネジメント&教養教育カリキュラムの再構築</p> <p>①未来の教養教育カリキュラム（研究会1回開催）、②書籍（3冊：『授業改善』『高校教員のための探究学習入門』『実務家教員への招待』）、③映像教材（関西地区FD連絡協議会「学習評価」）、④学会発表（国内9本：大教学会、京大フォーラム、日本実務教育学会、日本教育工学会、JAED）、④論文（2本『現代思想』『教育システム情報学会誌』）</p> <p>＜JAEDに関わる活動＞情報発信と新規会員獲得</p> <p>①カリキュラムコーディネーター研修講師、②2020年のFD（FDe養成講座特別セミナー講師） ③2020年度後学期の15のシナリオ（JAED緊急研究会講師）</p> <p>＜ICEDに関わる活動＞各国代表者業務</p> <p>①大会ならびに各国代表者会議（チューリッヒ）中止のため業務はあまりなし</p>

2021年度の活動目標（作成日：2021年2月26日）

氏名／所属：佐藤浩章（大阪大学）

さよならミクロ、よろしくミドル！：カリキュラム改革（メインは教養教育）への本格移行

学内教育開発関係活動	ミクロレベル	①教員向け研修（全学：オンライン授業、研究室教育）ならびにオンライン教材作成（新任教員研修教材の無償公開と他大学の内製化支援）、②学部生向け授業（未来創造のためのイノベーターズゼミ、未来の教育イノベーターズスクール）、③大学院生向けブレFDプログラム（FFPⅠ・Ⅱ・Ⅲ）ならびにTeaching Fellow研修会（年3回）、④高校教員向け探究学習指導セミナー（8月・12月）
	ミドルレベル	①高等教育・入試研究開発センターとの連携（兼任教員）によるカリキュラム評価支援
	マクロレベル	①全学的コロナ対応支援（全学方針立案支援、阪大ウェルカムチャンネル、新入生向けピアサポートプログラム立ち上げ）、②全学教学マネジメント体制と機能への提言（組織改革に向けた提言）、③30時間新任教員FDの運営、④全学FDフォーラムの企画・運営（エビデンスに基づくブレンデッド教育体制への移行）
高等教育開発者の活動としての特記事項		<p>＜学外の教育開発活動＞政策へのインパクト&教育イノベーション事例の創出 ①本気の大学支援事業（大正大学、京都先端科学大学、追手門学院大学、近畿大学、開志専門職大学、山梨学院大学）、③学会における専門分野別FDの推進（国立高専機構との連携）、④FD担当者支援（オンラインフリー教材の使い方セミナー実施）、⑤政府関連業務（大学設置審議会）、⑥高校教員向け探究学習推進（マイナビとの共同事業、書籍活用）、⑦外部評価委員・運営委員（SPOD、理工学教育共同利用拠点）、⑧メディア発信、⑨教学管理者研修の協力</p> <p>＜教育開発に関わる研究活動＞カリキュラムマネジメント&教養教育カリキュラムの再構築 ①未来の教養教育カリキュラム（研究会2回開催）、②書籍（1冊：『博士論文+α』）、③学会発表（国内3本：大教学会1、京大フォーラム1、JAED1）、④論文（2本：教学マネジメント、カリキュラム）</p> <p>＜JAEDに関わる活動＞情報発信と新規会員獲得 ①カリキュラムコーディネーター研修、②JAED研究会（コンセプト・ベースド・カリキュラム）</p> <p>＜ICEDに関わる活動＞各国代表者業務 ①各国代表者会議（チリ）開催されるか？</p>

2020年度の業績ハイライト（作成日：2021年2月26日）

氏名／所属： 榎原暢久（芝浦工業大学）

今年度の業績を端的に表現すると...

COVID-19への全学的な緊急対応支援、プレFDプログラムの安定的立ち上げ、「理工学教育共同利用拠点」事業の安定的運営

学内の教育開発関係活動	ミクロレベル	<ul style="list-style-type: none"> ①遠隔授業実施に関する緊急対応支援 ②新規プログラム「大学組織論入門」、「プレFD」等の企画・講師選定・開発支援 ③既存プログラムのZoomによる継続的实施・改訂
	ミドルレベル	<ul style="list-style-type: none"> ①全学科の学修・教育到達目標とカリキュラムの整合性チェック支援 ②カリキュラムコーディネーター養成講座開催、講師
	マクロレベル	<ul style="list-style-type: none"> ①「理工学教育共同利用拠点」プログラムの企画・開発・実施・評価および相談対応、研修講師 ②私立大学等改革総合支援事業、文科省補助金等に対する対応 ③新任教職員研修の企画・実施（4月分（資料配布と対応）、5月15日（相談会）、8月25・26日（シラバス、授業デザイン）、3月8・11日（学生主体の授業運営））、プログラム認証完了 ④TA研修会実施（VOD）、SCOT研修実施（Zoom） ⑤教育イノベーション推進センター NEWS LETTER の企画・発行
高等教育開発者の活動としての特記事項		<p>【学外の教育開発関係活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①大学セミナーハウス新任教職員研修他での学外依頼研修5件 ②愛媛大学 教育関係共同利用拠点運営委員会委員 ③岡山理科大学 教育開発センター 客員研究員 ④2021年度大学教育学会課題研究集会の準備 <p>【教育開発に関わる研究活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①科研・基盤C「理工系教育分野における教員支援FDプログラム開発と体系化」代表者 ②「①」で開発中の「理工系講義形式授業における発問を中心にした授業デザインWS」改訂 ③芝浦工業大学・教育改革研究活動助成 代表者 <p>【JAEDに関わる活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①理事として運営参画 ②関東圏JAED研究会企画・実施 ③カリキュラムコーディネーター養成講座を共催

2021年度の活動目標（作成日：2021年2月26日）

氏名／所属 榎原暢久（芝浦工業大学）

来年度の目標を端的に表現すると...

カリキュラムマネジメント部門長としての学内CMの整備とルーチン化、「理工学教育共同利用拠点」事業の安定的運営

学内の教育開発関係活動	ミクロレベル	①新規プログラム「ミドルマネジメント研修（仮）」等の企画・講師選定・開発支援 ②既存プログラムのZoomによる継続的实施・改訂
	ミドルレベル	①全学科の学修・教育到達目標の達成度を測る科目設定、成果指標の選定、可視化支援 ②カリキュラムコーディネーター養成講座開催、講師
	マクロレベル	①「理工学教育共同利用拠点」プログラムの企画・開発・実施・評価および相談対応、研修講師 ②私立大学等改革総合支援事業、文科省補助金等に対する対応 ③新任教職員研修の企画・実施（4月（組織理解（反転授業形式））、9月（シラバス、授業デザイン）、3月（学生主体の授業運営）） ④TA研修会実施（VOD）、SCOT研修実施（Zoom） ⑤教育イノベーション推進センター NEWS LETTER の企画・発行
高等教育開発者の活動としての特記事項		<p>【学外の教育開発関係活動】</p> <p>①SPODフォーラム他での学外依頼研修10件程度 ②2021年度大学教育学会課題研究集会の準備</p> <p>【教育開発に関わる研究活動】</p> <p>①実務家教員に対するFDに関する分担執筆本 刊行 ②「発問を中心にすえた授業デザイン」に関する論文 刊行</p> <p>【JAEDに関わる活動】</p> <p>①理事として運営参画 ②関東圏JAED研究会企画・実施 ③カリキュラムコーディネーター養成講座を共催</p>

2020年度の業績ハイライト（作成日：2021年2月26日）

氏名／所属： 清水 栄子 （ 追手門学院大学 ）

今年度の業績を端的に表現すると...

ニーズ把握と情報提供

学内の教育開発関係活動	ミクロレベル	<ul style="list-style-type: none"> ・テニユア・トラック教員対象研修の実施（継続）／オンライン対応（新規） ・学内の教員に共有できる授業事例集の作成（継続） ・学内の教職員に対するニュースレターの発信（継続） ・学内教員（非常勤講師含む）に対するFD相談会の実施（約30回）（新規）
	ミドルレベル	<ul style="list-style-type: none"> ・基盤教育機構におけるFD研修実施（7回）（継続）
	マクロレベル	<ul style="list-style-type: none"> ・COVID-19禍における授業運営に関わるTips集、動画による情報提供（新規） ・全学FDの企画（継続）
高等教育開発者の活動としての特記事項		<p>（学外の教育開発関係活動、教育開発に関わる研究活動等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学外大学でのFD講師（愛媛大学） ・学生文化創造学生支援相談に関する研究会講師 ・JAEDカリキュラムコーディネーター養成講座 ・大学コンソーシアム大阪SD企画コーディネート ・アカデミック・アドバイジング・サロンの企画・開催（8月：オンライン） ・NACADA Annual Conference（10月：オンライン） ・学習支援担当者を対象としたポートフォリオ作成WS試行（2月：オンライン） ・2020/2021年度基盤教育機構FD「ワイガヤ研修」実践報告投稿（追手門学院大学基盤教育論集8号） ・大学コンソーシアム大阪研修部会推進委員 ・立命館大学SSP学外アドバイザー

2021年度の活動目標（作成日：2021年26日）

氏名／所属： 清水 栄子 （ 追手門学院大学大学 ）

来年度の目標を端的に表現すると...

教育開発センター活動の可視化と学部との連携

学内の教育開発関係活動	ミクロレベル	<ul style="list-style-type: none"> ・テニユア・トラック教員対象研修の実施（継続） ・学内の教員に共有できる授業事例集の作成（継続） ・学内教員（含非常勤講師）に対するFD相談会の実施（継続）
	ミドルレベル	<ul style="list-style-type: none"> ・各学部・学科との調整、定例ミーティング
	マクロレベル	<ul style="list-style-type: none"> ・全学研修の企画・実施 ・105分授業移行への支援 ・テニユア・トラックプログラム（履修証明プログラム）
高等教育開発者の活動としての特記事項		<p>（学外の教育開発関係活動、教育開発に関わる研究活動等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学外大学でのFD実施 ・日本アカデミック・アドバイジング協会の運営 ・同協会の研修体系の作成・研修企画と実施 ・学習支援者のためのハンドブック作成 ・NACADA International Conferenceでの発表（エントリー済）

2020年度の業績ハイライト（作成日：2021年2月10日）

氏名／所属：西野 毅朗（京都橘大学）

今年度の業績を端的に表現すると...

コロナ禍に対応しつつ、新時代の教育開発支援を推進した

学内の教育開発関係活動	ミクロレベル	<p>●コロナ禍対応としての遠隔授業開発支援 （動画中心マニュアルの作成、前5回のオンラインやオンデマンドのFDを実施、個別の遠隔授業づくり支援）</p>
	ミドルレベル	<p>●新学部のカリキュラム開発支援 （カリキュラム全体の体系化への助言、教養教育の新科目シラバス開発、専門教育新科目の方向性調整、外注業者との調整支援、学習会の開催、プロトタイプ科目の試験的開講） ・カリキュラムアセスメントに向けた準備（看護学部におけるカリキュラムアセスメントの方法検討の支援）</p>
	マクロレベル	<p>●中間授業アンケートの企画、実施、分析、FD活用 ・新LMSの導入にかかる教員へのFD支援、全学FDの企画実行支援 ・学生支援課および就職進路課の方針策定支援</p>
高等教育開発者の活動としての特記事項		<p><学外の教育開発関係活動> ●私立大学連盟におけるオンデマンド研修の再構築支援 ・FDフォーラム第6分科会において「with/afterコロナ時代の教育開発支援」をコーディネート</p> <p><教育開発に関わる研究活動> ●SoTL （シミュレーション教育の研究論文化支援、カリキュラムアセスメントの研究論文化支援等） ・オンラインゼミに関するインタビューおよびインターネット調査を実施</p> <p><JAEDに関わる活動> ●ジャーナル発行準備、会員制度改定準備 ●JAED助成を用いた研究「日本版CTLアセスメントツール」の開発</p>

2021年度の活動目標（作成日：2021年2月10日）

氏名／所属：

（

大学）

来年度の目標を端的に表現すると...

新しい取組のスタートダッシュを最良のものにする

学内の教育開発関係活動	ミクロレベル	<ul style="list-style-type: none"> ・新科目「アカデミックスキル」「プロジェクトマネジメントⅠ」「キャリア開発演習Ⅰ」「キャリア開発演習Ⅱ」「ライティング基礎」「クリティカルシンキング」の設計・開発・実施・評価を行い、次年度にむけ改善する。
	ミドルレベル	<ul style="list-style-type: none"> ・新学部における新しい新入生セミナーを評価し、次年度の改善につなげる。 ・新学部の新科目をカリキュラム全体として評価し、次年度の改善に役立てる。 ・新学部におけるラーニングアポートフォリオ・ラーニングアセスメントの仕組みをつくる。 ・看護学部におけるカリキュラムアセスメントの実行を支援する。
	マクロレベル	<ul style="list-style-type: none"> ・新センターにおける新しい戦略と戦術を立案し、実行していく。 ・学習支援体制を構築する
高等教育開発者の活動としての特記事項		<p>＜学外の教育開発関係活動＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私立大学連盟オンデマンド研修を、ロールアウトする。 <p>＜教育開発に関わる研究活動＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンライン授業における協同学習についての事例研究をまとめる。 ・新学部における取組の実践研究化計画を検討する。 <p>＜JAEDに関わる活動＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジャーナルの創刊号を出す。 ・準会員を30名にする。

2020年度の業績ハイライト（作成日：2021年 02月 19日）

氏名／所属： 川上 忠重（法政大学）

今年度の業績を端的に表現すると...

「現場」を意識したFD活動の推進

学内の教育開発関係活動	ミクロレベル	芝浦工業大学開催の理工学教育共同利用拠点事業のWSに5回、名城大学のFDシンポジウム等に参加し、コロナ禍における特に理系の「教育の質」向上のための情報収集を積極的に行った。得られた情報に基づき、担当授業の「クラスデザイン」見直しを行い、また、大学院授業においてもGWやGoogleスライド等を使い、その成果から「オンライン・オンデマンド」授業のメリット・デメリットについて精査した。各科目の課題は、学生負担を十分考慮したものが提供でき、学習効果の向上も見られた。
	ミドルレベル	学内の自己点検・評価活動を通じて、各学部等のFDや学習成果の把握および優れた取り組み等を積極的に情報収集・提供することにより、FD推進を行った。同時にキャンパス再構築特設部会オンライン化システム構築検討チームの座長を務め、コロナ禍での学内の「オンライン・オンデマンド」授業の定義、フルオンデマンド授業の展開および著作権に関する情報提供を実践的観点から行った。
	マクロレベル	法政大学総長室付大学評価室長として、「コロナ禍」の過酷な条件下での自己点検・評価を学部長会議および研究科長会議に提案し、その情報を「総括」として取り纏め、全学のおよび外部にも公表し、「コロナ禍2年目」に向けた「質保証」に関する指針を、迅速に幅広く展開・提供した。
高等教育開発者の活動としての特記事項		<p>（学外の教育開発関係活動、教育開発に関わる研究活動、教育開発に関わる研究活動等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般社団法人日本私立大学連盟の「教育研究委員」として参加し、大学教育の質向上に向けた提案について、特に大規模私立大学の観点からの意見・提案を行った。 ・一般社団法人日本私立大学連盟の「FD推進ワークショップ運営委員」として、例えば加盟校が参加する「オンラインFD推進ワークショップ」等に参加し、特に私立大学におけるFD・SD活動の推進に積極的に務めた。 ・法政大学・大学評価室長として、大学基準協会や他大学のヒアリングにも積極的に協力し、組織運営方法を含む情報提供を行った。 ・「帝京大学高等教育開発センター」教育関係共同利用拠点運営委員として、同大学のFDへの取り組みや今後の方向性について、自大学の取り組みを踏まえた「現場目線」でのアドバイスを行った。

2021年度の活動目標（作成日：2021年 02月 19日）

氏名／所属： 川上 忠重（法政大学）

来年度の目標を端的に表現すると...

「Withコロナ」を意識した現場目線のFDおよび自己点検活動の推進

学内の教育開発関係活動	ミクロレベル	<p>①東京大学「大学総合教育研究センター」主催による「インタラクティブ・ティーチング」アカデミーおよび芝浦工業大学での「理工学教育共同利用拠点事業」のWSに継続参加し、理工系でのミクロレベルでのFDの効果測定について検討を行う。</p> <p>②機械工学科FD委員および1年生クラス担任として、「Withコロナ」での新入生への継続的な「学び」に直接繋がる支援サポートを対面方式で実施する。</p>
	ミドルレベル	<p>①学内の自己点検・評価活動を通じて、2020年度の「Withコロナ」での各学部・学科等の取組み状況に関する情報を収集し、「学びの質」向上の成果が得られた事例を具体的に紹介・共有することにより、本格的な「Afterコロナ」に向けた項目別の授業改善の点検に関する提案を行う。</p> <p>②大学評価室懇談会やセミナーを年4回程度開催することにより、各学部・研究科で抱えている、素朴な授業運営やデザインに関する情報提供を実施する。この場にもGWを積極的に活用する予定である。</p>
	マクロレベル	<p>①法政大学総長室付大学評価室長として、学部長会議や研究科長会議に対して、全学的な自己点検・評価活動の中心的な提案や情報提供を行うことにより、「With・Afterコロナ」時代の大学全体の「教育の質」向上に向けた取り組みと自己点検・評価について、さらに推進する。</p>
高等教育開発者の活動としての特記事項		<p>（学外の教育開発関係活動、教育開発に関わる研究活動、教育開発に関わる研究活動等）以下、2020年度からの継続事項とする（一部追加事項あり）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般社団法人日本私立大学連盟の「教育研究委員」として参加し、大学教育の質向上に向けた提案について、特に大規模私立大学の観点からの意見・提案 ・一般社団法人日本私立大学連盟の「FD推進ワークショップ運営委員」として、例えば加盟校が参加する「新任専任教員向けの大学教員の職能開発とFD活動」や専任教職員向けのFD・SD活動の推進を実行 ・法政大学大学評価室長として、大学基準協会基準委員会等を含む関連委員会に参加し、国内外での「自己点検・評価活動」を通したFD活動への評価の在り方について意見・提案 <p>【外部評価委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帝京大学高等教育開発センター 教育関係共同利用拠点運営委員 ・南山大学 外部評価委員会委員(令和3年4月～)

2020年度の業績ハイライト（作成日：2021年2月22日）

氏名／所属：竹中 喜一（愛媛 大学）

今年度の業績を端的に表現すると...

遠隔による研修の実践と高等教育開発に関する成果発信の充実

学内の教育開発関係活動	ミクロレベル	<ul style="list-style-type: none"> ・教育関係共同利用拠点事業と四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）のFD担当者として、「大学教職員のための学習支援入門セミナー」「IRer養成講座」「学習評価の基本」「授業デザインワークショップ」の研修を担当 ・共通教育の「新生セミナー」24クラスの遠隔授業支援 ・遠隔授業支援教材「遠隔授業をグレードアップするためのヒント集 Vol.2」作成
	ミドルレベル	<ul style="list-style-type: none"> ・「学生モニター会議」をコアにした農学部対象のカリキュラムコンサルティングの実施（学部FD委員長へのフィードバック） ・医学部看護学科カリキュラム改革支援（改革案への助言、カリキュラム・ループリック事例紹介）
	マクロレベル	<ul style="list-style-type: none"> ・「卒業予定者アンケート」「大学院修了予定者アンケート」「新入生アンケート」「新入生夏季アンケート」「後学期末アンケート」「教員アンケート」の実施、分析、報告を通じた教学IR活動 ※「新入生夏季アンケート」「後学期末アンケート」「教員アンケート」は遠隔授業などコロナ禍対応の現状と課題を把握するために新規に実施したアンケートで、設問設計と分析の主担当となった ・学生支援センター研究員として、学内の学習支援施設「スタディ・ヘルプ・デスク」の運営支援（スタディ・アドバイザーへの助言など）
高等教育開発者の活動としての特記事項		<p>＜学外の教育開発関係活動＞①研修講師としての活動（教学IR、カリキュラム、教学マネジメントなどのテーマで、24のFD／SD研修講師を担当）②学外委員としての活動（日本高等教育開発協会監事、日本教育工学会国際交流委員／企画委員／大会企画委員、日本教育メディア学会広報委員、大学教育学会事業構想委員、大学教育イノベーション日本の幹事（役員）として、学協会の運営を支援）</p> <p>＜教育開発に関わる研究活動＞①学会報告（日本教育工学会にて「愛媛大学における新任教員研修のオンライン実施に向けた再設計」を発表）②論文執筆（大学教育実践ジャーナル掲載「遠隔実施による新任教員研修の成果と課題－愛媛大学授業デザインワークショップにおける実践をもとに－」など第一著者2編、ほか2編（うち査読有3編）の執筆）③書籍執筆（『大学SD講座4 大学職員の能力開発』共編著、『看護教育実践シリーズ1 教育と学習の原理』分担執筆）④その他の執筆（教育学術新聞2編寄稿（「アセスメントプランを実質的に機能させるための視点 上／下」）</p> <p>＜JAEDに関わる活動＞監事、講師（カリキュラムコーディネーター養成講座（初級編）（中級編）、ファシリテーター（第12回JAED研究会）、高等教育開発協会研究費助成事業共同研究者（2件）</p>

2021年度の活動目標（作成日：2021年2月22日）

氏名／所属： 竹中 喜一 （ 愛媛 大学）

来年度の目標を端的に表現すると...

組織開発の支援者かつ当事者としての実践と研究

学内の教育開発関係活動	ミクロレベル	<ul style="list-style-type: none"> ・教育関係共同利用拠点事業と四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）の研修担当（新規研修開発含む） ・共通教育の「新入生セミナー」をはじめとした遠隔授業支援
	ミドルレベル	<ul style="list-style-type: none"> ・「学生モニター会議」を通じたカリキュラムコンサルティングの実施 ・学内のカリキュラムコーディネーター養成に向けた研修プログラム開発
	マクロレベル	<ul style="list-style-type: none"> ・「卒業予定者アンケート」「大学院修了予定者アンケート」「新入生夏季アンケート」「後学期末アンケート」「教員アンケート」の実施、分析、報告を通じた教学IR活動の実践 ・学生支援センター研究員として、学内の学習支援施設「スタディ・ヘルプ・デスク」の運営支援（スタディ・アドバイザーへの助言など） ・SPODのSD専門部会長としての役割 ・修学支援システム改修WGのメンバーとしての業務
高等教育開発者の活動としての特記事項		<ul style="list-style-type: none"> ・学外の高等教育機関ならびに学協会における研修講師を担当（年間10件程度） ・『大学SD講座2 大学教育と学生支援』の分担執筆者としての活動 ・高等教育開発の研究・実践の成果を学会やそれに準じる公表の場で発表 ・学協会の運営を支援 ・高等教育開発協会研究費助成事業共同研究者としての活動

2020年度の業績ハイライト（作成日：2021年2月21日）

氏名／所属：中井俊樹（愛媛大学）

今年度の業績を端的に表現すると...

遠隔、ミドル、マクロ

学内の教育開発関係活動	ミクロレベル	遠隔授業に関する指針策定、動画教材作成、テスト作成
	ミドルレベル	開講方針の策定、看護学科のカリキュラム改革支援、各種アンケート分析
	マクロレベル	第4期中期目標・中期計画の教育領域の策定、外部資金申請書の作成
高等教育開発者の活動としての特記事項		<ul style="list-style-type: none"> ・ JAEDの「カリキュラムコーディネーター養成講座」の企画、運営 ・ 研修事業を通じたJAEDの収入の確保 ・ JAED助成事業「カリキュラムコンサルティングの可視化」 ・ シリーズ編者として、『大学SD講座4 大学職員的能力開発』『看護教育実践シリーズ1 教育と学習の原理』『大学の教授法6 授業改善』の書籍の刊行 ・ 招聘講演の担当 ・ 各種アドバイザーの担当 ・ 教職員能力開発拠点の運営、SPODの運営 ・ JAED副会長、大学教育イノベーション日本代表、大学教育学会理事などの担当

2021年度の活動目標（作成日：2021年2月21日）

氏名／所属：中井俊樹（愛媛大学）

来年度の目標を端的に表現すると...

教育運営と組織支援の方法の可視化

学内の教育開発関係活動	ミクロレベル	各種研修やサービスの運営を通じた愛媛大学の教員の資質向上を支援する。
	ミドルレベル	中期目標・中期計画の策定やカリキュラム改革を通して愛媛大学の学生支援の質向上に貢献する。各種アンケート分析。
	マクロレベル	学長特別補佐、教育学生支援機構副機構長、教育企画室長、教職員能力開発拠点代表者、SPOD企画・実施統括者、DX推進室員、経営情報分析室員、SDGs推進室員など。
高等教育開発者の活動としての特記事項		<ul style="list-style-type: none"> 幅広い教育運営業務 他大学の組織支援業務 J A E D助成事業「カリキュラムコンサルティングの可視化」の最終成果物の刊行 教育の質保証を含む書籍の刊行と刊行計画 教職員能力開発拠点として、全国の高等教育機関のFDおよびSDの推進 SPOD事業を通して、四国における高等教育機関のFDおよびSDの推進 看護協会など高等教育機関以外の人材育成への貢献

2020年度の業績ハイライト（作成日：2021年2月25日）

氏名／所属：仲道雅輝（愛媛大学）

今年度の業績を端的に表現すると...

コロナ禍においても、学生の学びと人材育成を止めないための教育実践と研究

学内の教育開発関係活動	ミクロレベル	・授業デザインワークショップ、ティーチングポートフォリオ作成WS、授業コンサルティング、FD・SDスキルアップ講座の開講、初年次教育科目のオンライン授業設計支援、
	ミドルレベル	①コロナ禍において「オンライン授業ガイドライン」「遠隔授業をグレードアップするためのヒント集」「遠隔授業で成績評価するためのヒント集」等の作成。 ②テニユア育成教員制度研修のオンライン対応。 ③新入生セミナーオンラインコース（Moodle）の設計支援。 ④学生による情報発信プロジェクトによる、学生向け広報研修会の対面開催。 ⑤リーダーシップ教育のブレンディッド型実践（EFL授業、日台国際交流企画実施責任者）。 ⇒メディア（TV局3社4回・新聞1件・雑誌1件）からの取材および放送、記事掲載。
	マクロレベル	①（IR業務）日経BP大学ブランド調査結果の分析・考察（他大学比較および低下項目の分析）し、学長および理事等への報告。
高等教育開発者の活動としての特記事項		<p>＜学外の教育開発関係活動＞</p> <p>①授業設計等FDおよび人材開発に関わる研修会講師（8大学，2市役所，1県庁）</p> <p>＜教育開発に関わる研究活動＞</p> <p>①教育学術新聞「大学教育の更なる活性化を目指して-オンライン授業設計の要点と今後の課題」執筆</p> <p>②日本リメディアル教育研究原著論文「日本語ブレイスメントテストにおける試験時間と出題順が解答率と正答率に及ぼす影響」（採択）⇒現状分析の方法としてのブレイスメントテストの実施方法を、「日本語リテラシー入門」という科目で検証し、より精度の高いブレイスメントテストの要件に関する研究の推進。得られた知見をもとに、「より汎用性のある実施方法を見出す。</p> <p>③教育実践に関する研究成果を論文として発表（6本）</p> <p>＜学会等の活動＞</p> <p>①日本リメディアル教育学会シンポジウム「オンライン授業の設計について」登壇。</p> <p>②大学eラーニング協議会（UeLA）＆日本リメディアル教育学会（JADE）合同フォーラム開催。 口頭発表研究会の運営、シンポジウムにて「オンライン授業等の対応について」事例報告。</p> <p>＜大学間連携事業及び文部科学省等の活動＞</p> <p>①文部科学省大学振興課、専門教育課に対して「デジタルを活用した大学・高等教育高度化プラン（Plus-DX）DXの推進」に向けたオンライン勉強会にて事例発表・情報交換・共有。</p>

2021年度の活動目標（作成日：2021年2月25日）

氏名／所属：仲道雅輝（愛媛大学）

来年度の目標を端的に表現すると...

Afterコロナを見据えた教育実践と研究および教職員能力開発にかかわる大学運営への貢献

学内の教育開発関係活動	ミクロレベル	①各種研修会の対面開催、オンライン対応およびブレンディッド対応等の整理と効率化
	ミドルレベル	①授業設計支援（初年次科目、オンライン授業対応等） ②大学院FD等の対応 ③大学広報の強化への貢献 ④リーダーシップ教育のブレンディッド型実践のバージョンアップ
	マクロレベル	①教育・学生支援機構教育企画室の安定的運営への貢献
高等教育開発者の活動としての特記事項		<p><学外の教育開発関係活動> ①学外における継続的な教育開発支援を行う。</p> <p><教育開発に関わる研究活動> ①「学生の学習経験の質に着目した「授業改善ヒント集」の作成」の論文化 ②授業設計支援等に関わる教育実践研究論文の執筆 ③教育評価に関わる書籍の分担執筆</p> <p><学会等の活動> ①大学eラーニング協議会（UeLA）＆日本リメディアル教育学会（JADE）合同フォーラム開催</p> <p><大学間連携事業等の活動> ①大学間連携事業での取り組みを発表</p>

2020年度の業績ハイライト（作成日：2021年2月25日）

氏名／所属：服部 律子（奈良学園大学）

今年度の業績を端的に表現すると...

ミドルレベルの3ポリシー策定とカリキュラム構築の中間年

学内の教育開発関係活動	ミクロレベル	<ul style="list-style-type: none">① 新人教員と大学院生のための授業設計ワークショップとその後の授業コンサルタントが始動。② 学部内のチームの一員としてオンライン授業の工夫の成功事例集作成への取り組みをスタート。③ 奈良県内の看護系教員対象の授業設計と評価に関する研修会講師。
	ミドルレベル	<ul style="list-style-type: none">① 保健医療学部のシラバス改善のFD研修会の実施。② 看護学科のカリキュラム評価の実施。③ カリキュラム評価の結果等に基づく看護学科3ポリシーの見直しと新しいカリキュラム構築のための検討を統括。
	マクロレベル	<ul style="list-style-type: none">① 2021年度からの中期計画の作成に委員として関わり、学生支援に関する中期計画を作成。② 学生の学習や意識に関する調査をルーティン化させ、改善点を学長に提言。
高等教育開発者の活動としての特記事項		<p>＜学外の教育開発関係活動＞ 奈良県内の看護系教育機関のコンソーシアム化に向けて、その基盤となる奈良県看護学教育協議会の設立。</p> <p>＜教育開発に関わる研究活動＞ 「保健医療系大学教育における効果的なオンライン学習の活用に関する検討」の共同研究に取り組む中。</p> <p>＜JAEDに関わる活動＞ まだ、何もできておりません。</p>

2021年度の活動目標（作成日：2021年2月25日）

氏名／所属：服部 律子（奈良学園大学）

来年度の目標を端的に表現すると...

学内での新しい教育体制づくり

学内の教育開発関係活動	ミクロレベル	①学生ピア・サポーター養成講座の企画と実施
	ミドルレベル	① 看護学科のカリキュラム評価の継続。 ② 新しいカリキュラムの構築と新カリキュラムでの教育実践に向けた体制づくり
	マクロレベル	① IRの推進体制の構築 ② 学生対象の学習と学生生活に関する調査結果に基づく教育改善の体制づくり
高等教育開発者の活動としての特記事項		<p><学外の教育開発関係活動> 奈良県内の看護系教育機関のコンソーシアム化に向けて、その基盤となる奈良県看護学教育協議会の設立。</p> <p><教育開発に関わる研究活動> ①「保健医療系大学教育における効果的なオンライン学習の活用に関する検討」の成果の発表。 ② 周産期の看護のシミュレーション学習の効果を明らかにする共同研究の実施。</p> <p><JAEDに関わる活動> 看護系教員のためのカリキュラム・コーディネーター養成研修会の構想</p>